

【表紙】

E05317)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等E05317)

(2) 提出会社の経営指標等

|

2【沿革】

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社4社及び関連会社1社により構成されており、遺伝子破壊マウスの作製受託、臨床・非臨床試験受託、遺伝子解析受託、抗体作製受託、病理診断サービスを主たる業務としております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の4事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

また、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1) ジェノミクス事業

当社は、TG Resource Bank® 等の遺伝子情報の使用権許諾、遺伝子破壊マウス作製受託、病態可視化マウスなどのモデルマウスの販売を行っており、当社及び株式会社ジェネティックラボは、遺伝子解析受託を行っております。

(2) CRO事業

株式会社新薬リサーチセンター及び株式会社メディフォームは、医薬品・食品の臨床試験を行っております。株式会社新薬リサーチセンター及び当社は薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託を行っております。

(3) 抗体試薬事業

当社は、抗体作製受託、新規バイオマーカーの開発を、株式会社プライミューンは研究用試薬の販売を行っております。また、株式会社ジェネティックラボは個別化医療に向けた創薬支援サービスを行っております。

(4) 病理診断事業

株式会社ジェネティックラボは、病理診断サービスを行っております。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。

4【関係会社の状況】

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可

6【研究開発活動】

当連結会計年度における各セグメントの研究の目的、主要課題、研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は、42,565千円となっております。

(1) ジェノミクス事業

平成22年12月に国立大学法人熊本大学と「ヒト化マウスの開発」に関する共同研究契約、平成24年5月に細胞ストレス可視化マウスに関する独占ライセンス契約を締結し、事業化に取り組んでおります。

当事業にかかる研究開発費は21,245千円であります。

(2) 抗体試薬事業

平成25年6月、ヒトAIM測定用ELISAキットの発売に至りました。また、難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究に取り組みました。

当事業にかかる研究開発費は21,319千円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において重要な設備投資はありません。

また、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

(平成26年3月31日現在)

E05317)

- (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
該当事項はありません。
- (4) 【ライツプランの内容】
該当事項はありません。
- (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

(7)【大株主の状況】

E05317)

2 【自己株式の取得等の状況】

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、「企業価値向上」を目標とし、経営監督機能と業務執行機能の明確化、意思決定の迅速化及び経営の健全性・透明性の確保を目指してコーポレート・ガバナンスの

ホ リスク管理体制の整備状況

八 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法
E05317)

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

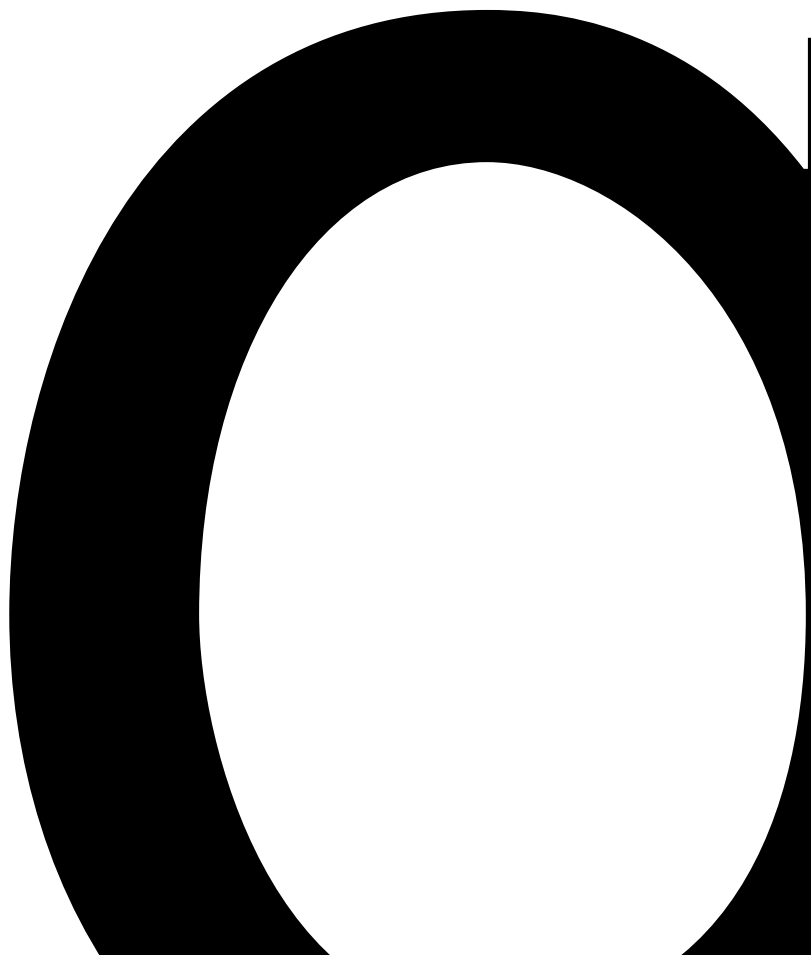
第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28

E05317)

前連結会計年度
(梟 研 碑 瑞)



【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 4社

連結子会社名 (株)新薬リサーチセンター
(株)ジェネティックラボ
(株)プライミューン
(株)メディフォーム

すべての子会社を連結しております。

なお、当連結会計年度より、株式会社新薬リサーチセンターを設立し、連結の範囲に含めております。ま

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与金の支払に備えて、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

受注損失引当金

E05317)

(連結貸借対照表関係)
担保資産及び担保付債務
E05317)

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1 リース資産の内容

有形固定資産

E05317)

2 金融商品の時価等に関する事項

(有価証券関係)

1 その他有価証券

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

(税効果会計関係)

(企業結合等関係)

1 取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

E05317)

(セグメント情報等)

当連結会計年度（自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日）

--	--	--	--	--

E05317)

(重要な後発事象)

株式交換による完全子会社化

当社は平成26年5月15日開催の各社の取締役会において、連結子会社である株式会社ジェネティックラボ(以下、「ジェネティックラボ」という。)及び株式会社プライミューン(以下、「プライミューン」という。)を完全子会社とする株式交換(以下、「本株式交換」という。)を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結いたしました。

本株式交換につきまして、当社は、会社法第796条第3項の規定に基づく簡易株式交換の手続きにより、当社株主総会による承認を受けず、また、ジェネティックラボは平成26年6月17日、プライミューンは平成26年6月18日に各定時株主総会において本株式交換契約の承認を受けました。なお、平成26年8月1日を効力発生日として行う予定です。

1 企業結合の概要

【連結附属明細表】
【社債明細表】

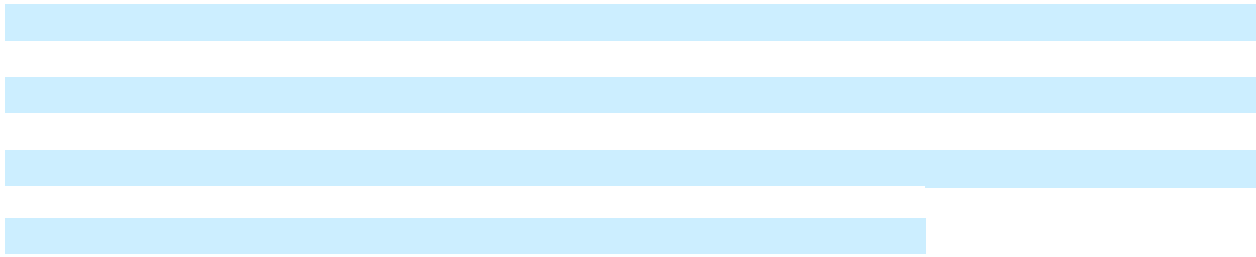
|

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

--	--	--	--	--

【損益計算書】



【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

E05317)

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

(税効果会計関係)

E05317)

第6【提出会社の株式事務の概要】

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

